

□9月22日説教(短縮版)隅野徹牧師「わたしたちの
日々はすべて記されている」詩編139:13～24

13節14節の「私達一人ひとりの命は、神の大いなる力によって驚くべきものに造り上げられているのだ…」その気づきが、15節から16節にかけての次の感謝へ私たちを導くのです。ここでは私たちの命をつくられた神が、ただ造りっぱなしで終わるのではなく、ずっと見守ってくださっている愛のお方だということが分かります。特に注目すべきは16節の二つ目の文です。私達人間の1日1日を、造り主はすべて記録してくださっているのです。今日の説教題につけさせていただきました。

今日は2年前天へ凱旋され、この後納骨式をいたします池田千恵子さんを覚えて礼拝をささげています。青島で生まれ、長門市で長く生活された池田さん。神は他の時代や場所やご家庭ではなく、御心の時と場所で命を授け、一日一日を導いてくださいました。今日ご出席の素敵なお家族や長門教会の素晴らしい仲間が与えられ、晩年は山口信愛教会で共にお交わりできたことも、神の記録・書に記されている…そのことを改めて思います。決して偶然存在した命ではなく、神がご計画のうちに与えられた命です。

そして神の命の書・記録では、池田千恵子さんの命はずっと続いているのです。別の聖書箇所ではっきりと記されていますが、神の御子イエス・キリストを救い主として告白した方は、この地上で死んでも、イエス・キリストによって復活の命・永遠の命を得ることができるのです。

キリストにある希望をもってこの世を生きられた1日1日が、命の書・記録に記されていることは間違いないでしょう。聖書はさらにキリストと出会う前、母親の胎にやどったときから、命の日々が記録されていると示します。そうであるならば天での1日1日も、神が最善に千恵子さんの命を導いてくださっていることは間違いありません。その確信を、詩編139編を通して与えられるならば幸いです。

(終)